

平成20年度堆肥共励会 入賞者の概要

1. 概要

出品者名	石井 誠二
所在地	菊池市旭志川辺
組織等の概要 (活動の経緯)	平成12年 <ul style="list-style-type: none"> ・簡易低コスト家畜排せつ物処理施設開発促進事業により堆肥化施設を整備 ・九州沖縄農業研究センターの「堆肥脱臭装置付き低コスト強制通気式堆肥舎」の実証モデル施設として、同センターと連携し堆肥製造を開始 平成20年7月 <ul style="list-style-type: none"> ・熊本県堆肥共励会に参加

2. 堆肥の特徴 (混合割合。重量比)

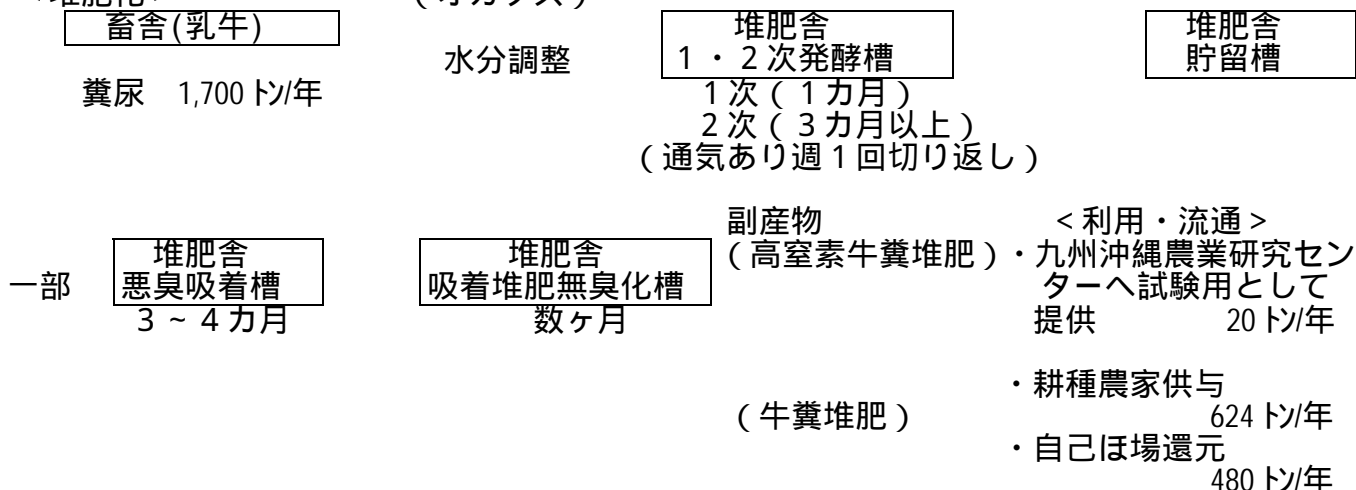
原材料	家畜ふん尿	副資材				その他	計 (%)
	乳牛ふん尿	オガクズ					
	75	25					100

3. 堆肥の生産及び流通について)

1) 堆肥生産の施設・機械等

- ・堆肥舎 975.84㎡ (発酵槽、悪臭吸着槽、貯留槽、吸着堆肥無臭化槽、エプロン)
- ・ホイルローダー 1台 (0.8m³)
- ・脱臭装置 一式
- ・マニユアスプレッダー 1台 (2t)

2) 堆肥化及び利用・流通のフロー <堆肥化> (オガクズ)



4. 堆肥生産の工夫や特徴

- ・堆肥原料が70%以下になるような水分調整と切り返しを週1回欠かさず行い、堆肥の状態や季節毎に通気量の調整を行いながら、良質堆肥を製造している。さらに、その堆肥をほ場に還元し、自給飼料の生産に努めている。
- ・堆肥脱臭により、悪臭の発生を防止している。また、悪臭を吸着した堆肥は、高濃度の窒素(通常2~2.5倍程度)を含有しており、肥料としての有効利用が可能である。
- ・九州沖縄農業研究センターの実証モデル施設として試験研究が実施(平成12~16年度)

され、「堆肥脱臭システム」の確立に寄与した。なお、現在も同センターの試験研究に協力している。

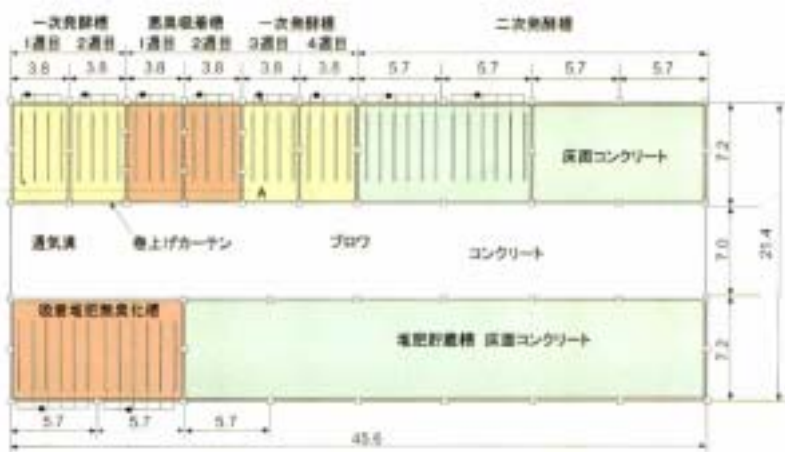
・この「堆肥脱臭システム」は、鹿本及び菊池地域で整備された2カ所の堆肥センターに取り入れられている。

5 今後の目指す方向と課題

- ・今後とも、九州沖縄農業研究センターと連携し、継続して良質堆肥の製造に努める。
- ・高窒素牛糞堆肥については、飼料を生産する際に肥料としての施用方法を検討し、肥料費の削減を図る。また、高付加価値の堆肥として新たな販売ルートの開拓にも取り組む。
- ・ホイールローダーが老朽化しており、更新を検討している。



堆肥化施設全景



発酵槽（1，2週目）



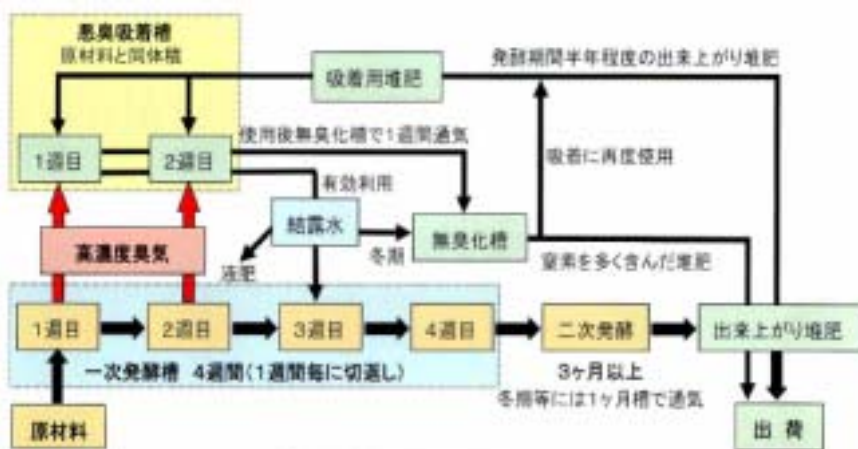
発酵槽内部



発酵槽天井
(天井から悪臭を吸引)



悪臭吸着槽
(床面から悪臭を導入)



(*九州沖縄農業研究センター「低コスト堆肥脱臭システム」パンフレットより)